



株式会社 JCU

証券コード：4975

株主・投資家の皆様へ

第56期

JCU REPORT

年次報告書 (2015.4.1—2016.3.31)

CONTENTS

目で見る連結決算ハイライト	1	特集 FPC戦略プロジェクト	6
セグメント別業績概況	2	【進捗報告】	
株主・投資家の皆様へ	3	装置が完成間近！	
トピックス	5	市場展開に向けた次のステージへ	
アメリカ現地法人の紹介		連結財務諸表	7
JCU INTERNATIONAL, INC.		株式の概況 / 会社概要	9

目で見える連結決算ハイライト（第56期期末）

売上高

19,818百万円

前期比0.1%増



営業利益

4,906百万円

前期比6.5%増



経常利益

4,926百万円

前期比1.9%増



親会社株主に帰属する当期純利益※

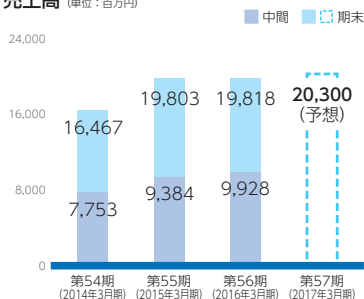
3,410百万円

前期比6.4%増

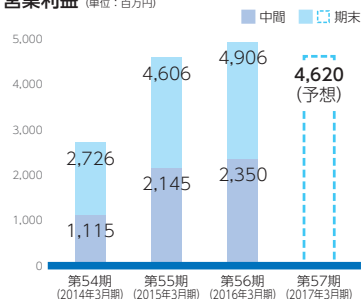


財務ハイライト(連結)

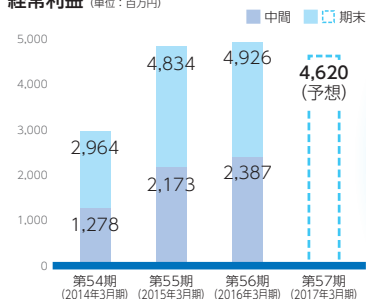
売上高 (単位: 百万円)



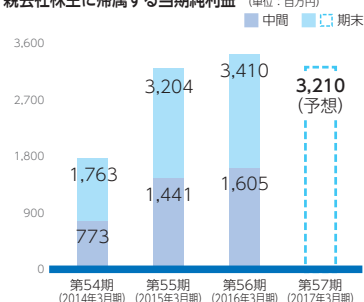
営業利益 (単位: 百万円)



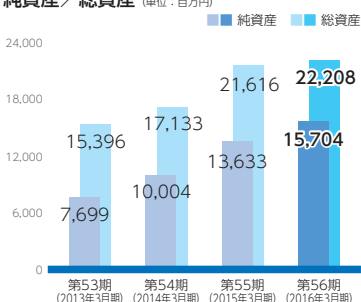
経常利益 (単位: 百万円)



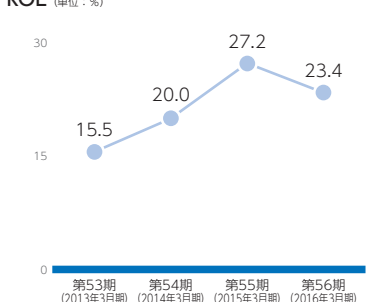
親会社株主に帰属する当期純利益※ (単位: 百万円)



純資産／総資産 (単位: 百万円)



ROE (単位: %)



※ 「企業結合に関する会計基準」等の適用に伴い、従来の「当期純利益」は「親会社株主に帰属する当期純利益」に名称が変更になりました。

装置事業

10.2%

新規事業

3.5%

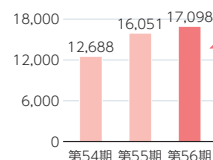
セグメント別 業績概況

薬品事業

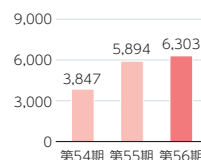
86.3%

薬品事業

■売上高 (単位: 百万円)



■セグメント利益 (単位: 百万円)



当社薬品使用例



自動車部品

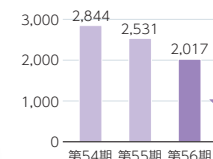


プリント配線板

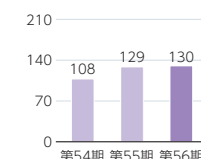
薬品事業では、国内外市場において表面処理薬品の製造販売、関連資材の仕入販売を行っております。もっとも重要なマーケットと考えているのは、一つは自動車や住宅産業であり、もう一つはプリント配線板や電子部品などのエレクトロニクス産業であります。第56期は、中国、台湾、韓国におけるプリント配線板用めっき薬品の販売が堅調に推移し、また中国では、自動車用めっき薬品の販売も順調に推移しました。この結果、売上高・セグメント利益ともに前年を上回りました。

装置事業

■売上高 (単位: 百万円)



■セグメント利益 (単位: 百万円)



製品一例

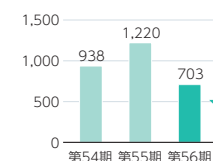


全自動表面処理装置

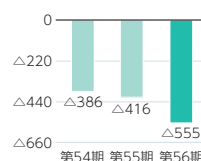
装置事業では、全自動表面処理装置及び表面処理装置の付帯機器の製造販売を行っております。第56期は、設備投資が抑制された影響で、売上高は前年を下回りましたが、利益率の改善によりセグメント利益は前年を上回りました。

新規事業

■売上高 (単位: 百万円)



■セグメント利益 (単位: 百万円)



新規事業一例



太陽光発電設備

新規事業では、プラズマ技術を利用したプリント配線板のエッチング及び洗浄用装置の販売、スパッタリング装置による着色処理、貴金属めっきプロセス薬品の製造販売、コーティング薬品の製造販売、太陽光発電設備の販売を行っております。第56期は、大型の太陽光発電設備案件が翌期へ延期となった影響もあり、売上高は前年を下回り、販売費及び一般管理費が増加した結果、セグメント利益も前年を下回りました。

追い風は終わり、逆風の時代に備えて

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年2月に逝去した粕谷前会長の後を受け、新会長に就任した小澤でございます。これからも前会長に負けず、会社発展に向けて社員一同一丸となって邁進する所存ですので、これまで以上のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

第56期の業績と今後の展望

第56期(2015年4月1日から2016年3月31日まで)の決算は、後半の世界的な景気の低迷の影響を受ける中、結果として4期連続で最高益を更新することができました。

内訳は売上高198億18百万円、営業利益49億6百万円、経常利益49億26百万円、親会社株主に帰属する当期純利益34億10百万円でした。この結果、中間期に引き続き期末は1株当たり10円の記念配当を維持し合計60円の配当といたしました。年間では、合計120円の配当となっております。

これまでの業績を下支えしていた要因として、スマートフォンを中心としたプリント配線板市場と自動車を中心としたPOP(プラスチック上へのめっき)向けの薬品販売が好調であったことに加え、最もインパクトがあったのは円安の恩恵でした。

しかし皆様ご存知のように、アメリカや韓国メーカー

のハイエンドスマートフォンの販売が頭打ちとなり、中国メーカーによる格安製品に需要は移行しています。全体の販売台数の増加は今後も継続すると見込んでおりますが、この市場構成の変化により、価格の競争が益々激しくなり、当社にとって利益の確保に苦慮する時代になると考えております。

また、もう一方の自動車市場につきましては、中国経済の減速感は懸念されるものの中国における営業努力が功を奏し、新規顧客の獲得により売上高は順調に伸張しております。北米については、他と比べ経済が安定しているため高級車の販売が比較的好調で、プラスチックめっき部品の需要も旺盛であります。従いまして、この分野の見通しは引き続き安定していると考えております。

第57期の課題と戦略

今年に入り、中東の混乱と難民問題そしてテロの脅威により、EUの各国の歩調に乱れが出ています。一時落ち着いていた財政危機の問題が再燃し、イギリスのユーロ離脱なども真剣に議論されています。また、中国の人民元の切り下げや、アメリカFRBの金利上げの先送りなどの影響で、円高基調になっております。この円高の流れは当面続くものと判断しており、これまでの追い風の時代は終了し、言ってみれば逆風の時代になると覚悟し

なければなりません。これからが企業の本当の力が問われる時代だと思います。

このような円高の背景を受けて、第57期の業績は売上高203億円、営業利益・経常利益とも46億20百万円、親会社株主に帰属する当期純利益32億10百万円と増収減益を予想しております。しかし、新しく始めた天然水の販売事業や、現在取り組んでいるフレキシブルプリント配線板の新工法などをいち早く市場に投入することにより、業績向上に貢献できればと期待しております。

そうした中で、当社が将来の持続的成長を確保するために、下記のような経営方針を策定し、経営陣・従業員が一丸となって株主・投資家の皆様のご期待に応えるべく業績向上に努めたいと考えております。

- ビアフィリング用銅めっき薬品やPOPめっき薬品など高シェア製品の販売維持と効率化による利益の確保
- 事業の多角化と再構築により、将来の利益を創出
- 他企業との協業によるグローバル展開を図り、収益を拡大
- コーポレート・ガバナンスの徹底とコンプライアンスの重視

株主・投資家の皆様におかれましては、これまで以上のご愛顧を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。



代表取締役会長 兼 CEO

小澤 恵二

代表取締役社長 兼 COO

君塚 亮一

アメリカ現地法人の紹介

JCU INTERNATIONAL, INC.

社長 大森 晃久

当社のアメリカ法人は、北米大陸2箇所目の現地法人であるJCU INTERNATIONAL, INC.として、ミシガン州デトロイト市の北西約30キロに位置するオークランド郡ウィクソム市に設立しました。ウィクソム市はオークランド郡内の人口6万人足らずの小さな市でしたが、自動車ビッグ3の復活により多くの工業団地が開発され、現在もなお多くの企業が同市に進出してきており、これから更に発展することが期待されています。この周辺には多くの自動車関連の日系企業が進出しており、当社アメリカ法人はオークランド郡の500社目の日系企業として2014年10月に登録を完了しました。それから1年3ヵ月の歳月を掛けてようやく2016年3月にウィクソム市から建築使用許可を受理することができました。

アメリカ法人はこれまでの海外現地法人とは異なり、初めから本格的なR&D施設を併設しています。その規模は日本の総合研究所の半分に相当し実験室、精密機器室、パイロットプラント室から構成されています。実験室は、一度に約20名の研究員が開発業務に従事できる広さを有しています。また、精密機器室は最新鋭の測定機器類を有しており、外部機関に出すことなく各種測定が可能となっています。めっき加工試験を行うパイロットプラント室に

は、小型の自動車フロントグリルも加工できる本格的なパイロットラインも併設しています。

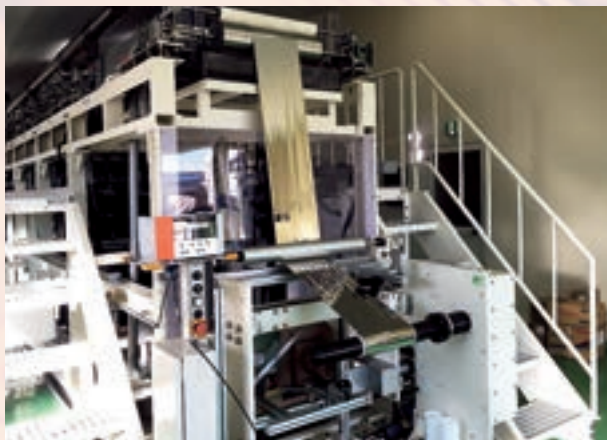
当社グループ内でのアメリカ法人の役割は、自動車産業における情報発信地であるアメリカでそのニーズや次世代技術の情報をいち早く収集し、リアルタイムに製品開発を行い市場展開すること、またそれらをアメリカ国内はもとより全世界に向けて展開することです。これらを可能にすることで当社の事業基盤はより強固なものになると信じていますが、現地スタッフ一丸となり目標に向かって邁進してまいる所存です。



JCU INTERNATIONAL, INC. オフィス 兼 研究所

FPC（フレキシブル基板）戦略プロジェクト【進捗報告】

装置が完成間近！ 市場展開に向けた次のステージへ



ロール to ロール式無電解ニッケルめっき装置



ロール to ロール式電解銅めっき装置

プロジェクトの概要

FPCとは薄く柔軟性があり折り曲げが可能な基板のことで、近年、スマートフォン等のモバイル情報端末を中心にそのニーズが高まっています。当社がこのFPCそのものを製造するのではなく、FPCを構成する主要部材の製造工程において新しい工法を提案しようとしているのが本プロジェクトの目的です。

第56期の期初にプロジェクトを立ち上げ、ロール to ロール式めっき装置の開発に力を注いできました。これら装置と薬品の相性を検証する社内試験と並行して、現在は顧客の評価試験を行っています。

今後、顧客の評価試験で発生する課題に1つ1つ対応し、早期に市場展開できるように努めてまいります。

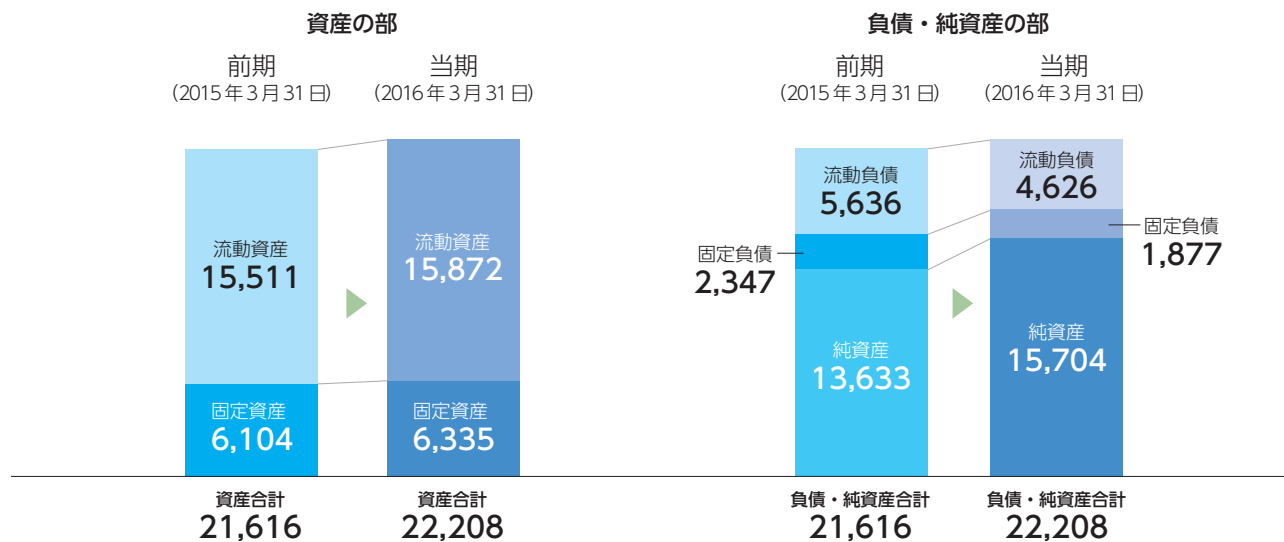


ロール to ロール式プラズマ装置

連結財務諸表

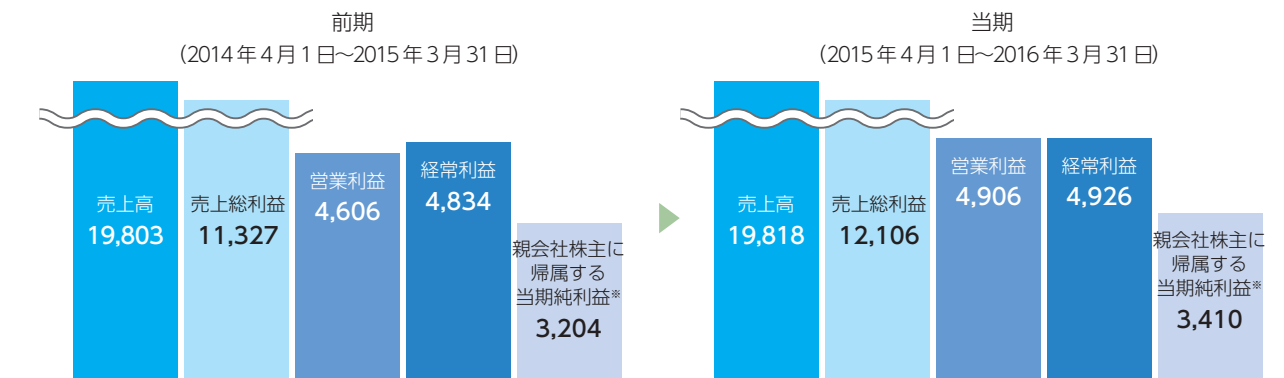
連結貸借対照表

(単位:百万円)



連結損益計算書

(単位:百万円)

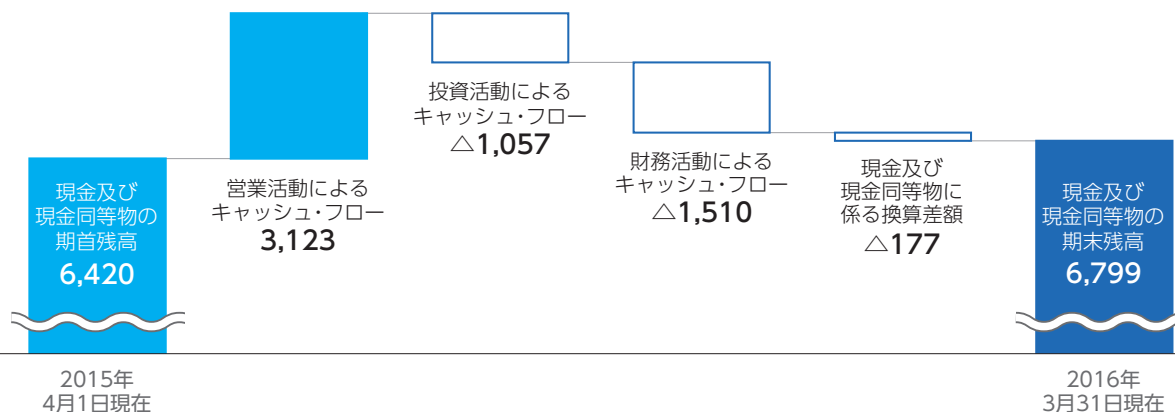


※ 「企業結合に関する会計基準」等の適用に伴い、従来の「当期純利益」は「親会社株主に帰属する当期純利益」に名称が変更になりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

当期
(2015年4月1日～2016年3月31日)



財務のポイント

● 資産

当連結会計年度末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ591百万円(2.7%)増加し、22,208百万円となりました。流動資産は、主に現金及び預金の増加により360百万円(2.3%)増加し、15,872百万円となりました。固定資産は、主に外国法人の株式取得による投資有価証券の増加により231百万円(3.8%)増加し、6,335百万円となりました。

● 負債

当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,479百万円(18.5%)減少し、6,503百万円となりました。流動負債は、主に未払法人税等の減少により1,009百万円(17.9%)減少し、4,626百万円となりました。固定負債は、主に借入返済による長期借入金の減少により470百万円(20.0%)減少し、1,877百万円となりました。

● 純資産

当連結会計年度末の純資産合計は、主に配当金支払による利益剰余金の減少と、親会社株主に帰属する当期純利益の計上による利益剰余

金の増加により、前連結会計年度末に比べ2,071百万円(15.2%)増加し、15,704百万円となりました。

● 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益は前年同期と比べ75百万円(1.6%)増加しましたが、主に法人税等の支払額が増加したことにより、営業活動によるキャッシュ・フローは3,123百万円と、前年同期と比べ収入が146百万円(4.5%)の減少となりました。

● 投資活動によるキャッシュ・フロー

主に投資有価証券の取得による支出が増加したことにより、投資活動によるキャッシュ・フローは△1,057百万円と、前年同期と比べ支出が63百万円(6.4%)の増加となりました。

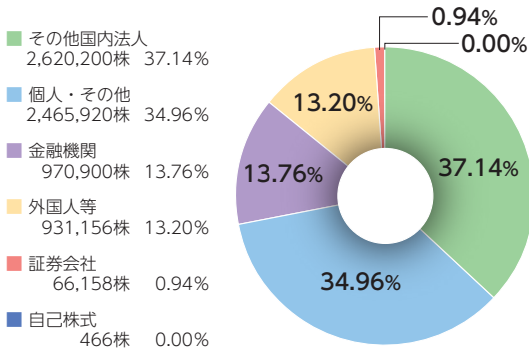
● 財務活動によるキャッシュ・フロー

主に配当金の支払額が増加したことや、長期借入の返済による支出が生じたことにより、財務活動によるキャッシュ・フローは△1,510百万円となりました。また、長期借入金の実行等があった前年同期と比べ支出が1,168百万円(342.2%)の増加となりました。

株式の状況

発行済株式総数..... 7,054,800株
株主数..... 6,434名

所有者別株式分布状況



大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	287,000	4.06
日本パーカライジング株式会社	227,000	3.21
日本高純度化学株式会社	220,000	3.11
粕谷佳允	207,600	2.94
荏原実業株式会社	200,000	2.83
株式会社スレイ	200,000	2.83
日本化学産業株式会社	186,000	2.63
JP MORGAN CHASE BANK 380634	184,800	2.61
神谷理研株式会社	160,000	2.26
栄電子工業株式会社	160,000	2.26

(注) 持株比率は自己株式(466株)を控除して計算しております。

商号 株式会社JCU(2012年10月1日より)
本社所在地 東京都台東区東上野四丁目8番1号 TIXTOWER UENO 16階
設立 1968年(昭和43年)4月1日
資本金 1,176,255,128円
事業所 ■ 国内
総合研究所 生産本部 大阪支店 名古屋支店
九州営業所
■ 主要な連結子会社
JCU(上海)貿易有限公司
JCU (THAILAND) CO., LTD.
台湾JCU股份有限公司
JCU KOREA CORPORATION
JCU VIETNAM CORPORATION
JCU(深圳)貿易有限公司
PT. JCU Indonesia
JCU科技(深圳)有限公司
JCU(北京)貿易有限公司
JCU AMERICA, S.A. DE C.V.(メキシコ)
JCU INTERNATIONAL, INC. (アメリカ)
JCU CHEMICALS INDIA PVT. LTD.
櫻麓泉(上海)国際貿易有限公司

役員一覧 (2016年6月29日現在)

代表取締役会長兼CEO	小澤	惠二
代表取締役社長兼COO	君塚	亮一
専務取締役専務執行役員	小林	幹司
常務取締役常務執行役員	林	伸治
常務取締役常務執行役員	大森	晃久
常務取締役常務執行役員	新井	晃隆
取締役常務執行役員	木村	昌志
取締役常務執行役員	松本	順一
取締役常務執行役員	谷野	一聖
社外取締役	縄舟	秀美
社外取締役	高澤	正彦
社外監査役	伴中	隆夫
社外監査役	高井	治充
社外監査役	市川	朗
執行役員	山本	観一
執行役員	荻原	秀樹
執行役員	粕谷	多聞
執行役員	鈴木	智雄
執行役員	林	英彦
執行役員	今池	豊一
執行役員	池側	浩文

従業員数 連結528名(11名) 単体258名(11名)

(注) 臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含みます。)、年間の平均人員を()外数で記載しております。

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当基準日	期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
公告方法	電子公告 (http://www.jcu-i.com/) ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵送物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話 お問合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00～17:00)
各種手続 お取扱店 (住所変更、 株主配当金受 取り方法の変 更等)	お取引の証券会社等 になります。	みずほ証券 本店、全国各支店 プラネットブース(みずほ銀行内の 店舗)でもお取扱いたします。 みずほ信託銀行 本店及び全国各支店 *トラストラウンジではお 取扱できませんのでご了 承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行及びみずほ銀行の本店及び 全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります)	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合わせ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

ホームページのご案内

ホームページでは、当社の企業情報をはじめ事業情報や、株主・投資家の皆様向けの情報として、決算発表資料等を適時掲載しております。



トップページ



IRページ

J C U

検索

<http://www.jcu-i.com/>

株 主 ひ ろ ば

株主優待について

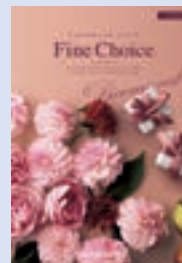
当社の株主優待品は
3月31日現在
単元株以上保有の株主様へ
右記のとおり、「ギフトカタログ」を
お届けいたしております。



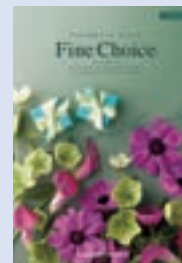
100株以上200株未満
2,500円相当の品
アクアマリン



200株以上1,000株未満
5,000円相当の品
クリスタル



1,000株以上2,000株未満
10,000円相当の品
ダイヤモンド



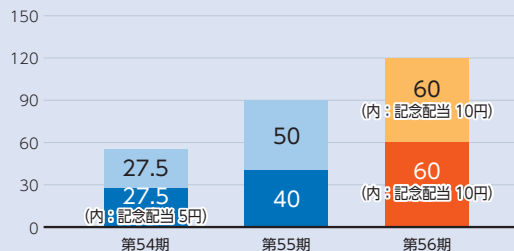
2,000株以上
15,000円相当の品
ラピスラズリ

株主還元について

利益配分に関する基本方針

当社は、将来の事業展開と経営体質の強化のために適正な自己資本比率を維持しつつ、業績の状況に応じて配当性向等を勘案し、安定した配当を実施することを基本方針としております。内部留保資金の用途につきましては、今後の事業活動並びに経営基盤の強化に有効活用していく方針であります。

配当金 (円) ■ 期末 ■ 中間



※第55期の期中(2014年10月1日付)に普通株式1株につき2株の割合を持って株式分割を行っております。第54期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり配当金を算定しております。



株式会社 JCU

〒110-0015 東京都台東区東上野四丁目8番1号
TIXTOWER UENO 16階
TEL: 03-6895-7001 FAX: 03-6895-7021
<http://www.jcu-i.com/>

